

立体造形コース

2016年度 試験科目

公募制推薦入試

一般入試A日程

一般入試B日程

- 芸術学部・デザイン学部・マンガ学部 共通鉛筆デッサン (P.045~)
- 立体表現
- 面接・作品審査 (P.084)

前年度からの変更点

- 公募制推薦入試、一般入試A日程の「芸術学部共通鉛筆デッサン」を「芸術学部・デザイン学部・マンガ学部共通鉛筆デッサン」として実施します。

● 芸術学部・デザイン学部・マンガ学部 共通鉛筆デッサン

P.045

● 立体表現

出題意図： 出題の理解力、作品の構成力、工作力が問われる事は当然ですが、何よりも独創的な発想、意外性のある発想を期待しています。

2015年度 公募制推薦入試 試験問題

時間： 4時間

問題： 与えられた厚手ケント紙とアルミ線を使い、テーマにそって自由に立体表現しなさい。
また、制作意図を原稿用紙に200字以内の文章で説明しなさい。(時間内に書くこと)

テーマ： 「^{あいはん}相反する2つのもの」

支給素材：

● 厚手ケント紙	3枚
● アルミ線	1巻
● 原稿用紙	1枚
● 接着剤	1本
● カットティングマット	1枚
● 台紙	1枚
● ペンチ	1本
● アイデアスケッチ用紙(B4)	1枚

2015年度 一般入試A日程 試験問題

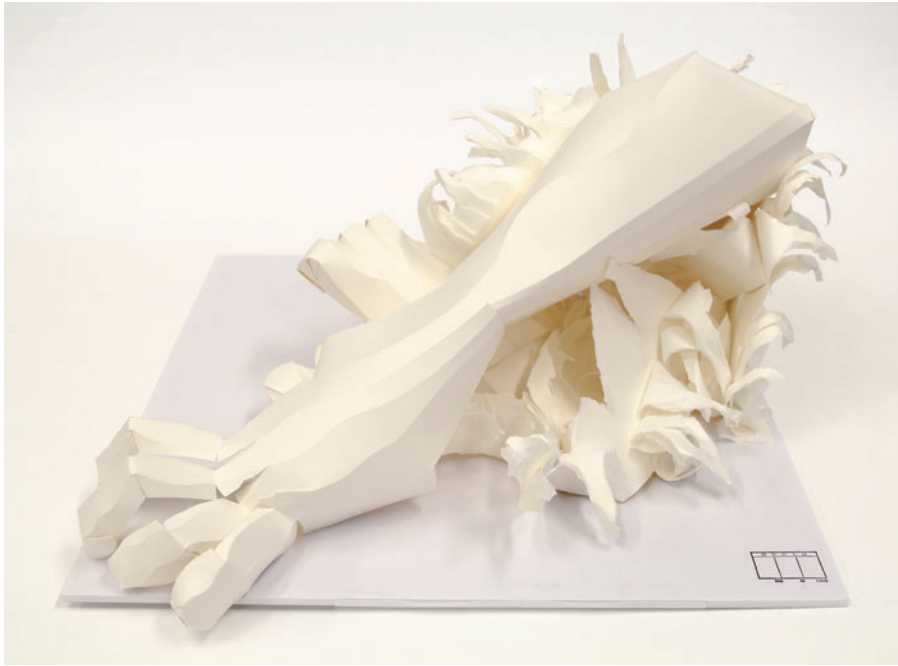
時間： 4時間

問題： 与えられた厚手ケント紙を使い、テーマにそって自由に立体表現しなさい。
また、制作意図を原稿用紙に200字以内の文章で説明しなさい。(時間内に書くこと)

テーマ： 「表裏」

支給素材：

● 厚手ケント紙	3枚
● 原稿用紙	1枚
● 接着剤	1本
● カットティングマット	1枚
● 台紙	1枚
● アイデアスケッチ用紙(B4)	1枚



立体表現 「表裏」

作品評価

エッジの効いた曲線と面を活かして造形された「腕・手」のようなパーツと、紙を破いて作られた部分が上手く組み合わせられている、とても力強く大らかな作品です。かたちに意思をもたせたところが高く評価できます。文章では、時に周りに流されてしまう弱いところと、それを打ち破りたい意識の「表裏」について書かれています。どちらが本心が判断しかねるところですが、後者であることを切望します。

いつからか、僕は周りに同調するだけで、自分の意見を持たない人間になってしまった。裏側にあった、自分の本当にやりたい事を封印して、表ではウンウンと人の意見を肯定し続けていた。だが、そんな日々にはもうウンザリだ。裏に隠れて出られないでいる、真の意思を陽の下にさらけ出すのだ！偽の表の皮を破り、本来の「僕」になるんだ！

「表裏」というテーマの捉え方は様々である。自分は植物の枝や幹が剥がれて表皮とその裏側の内部が露わになっている場面をイメージした。それを幾何形態として還元化しシンプルかつ正面からだけでなく各視点から見ても興味深いシルエットとなるように構成した。また立体表現として台紙の上に存在する「虚」の空間を「実」である立体で内包することによって空間の中で様々なベクトルに視線を誘導しより魅力的にみせた。

立体表現 「表裏」

作品評価

作者の文章からもテーマである「表裏」に対してとてもしっかりした理由、コンセプトを感じる構成です。素材の工作も丁寧でしっかりしていて安定感があります。紙をシワにして表情に変化をつけています。反面全体にやや硬いところがありイメージが膨らみにくく、鑑賞者にそれ以上の何かを感じさせる余地がありません。もう少し柔軟な発想も必要かもしれません。

